

## 「α (アルファ) 世代」の子どもたちに

教育部次長 上杉 康晴

大津市では、令和6年度から「校内ウイング」の運用が始まりました。各校で環境整備等、充実に努めていただき、令和8年1月現在、500名を超える子どもたちが活用しています。学校に行きにくい、教室に入りづらい子どもたちの心のよりどころができたことをとてもうれしく思います。



令和4年度に「生徒指導提要」が改訂されたことを、皆さんもご存じかと思います。生徒指導提要では、すべての児童生徒に向き合う際の基本的な立ち位置として、子どもが自発的・主体的に自らを発達させていくことが尊重され、その発達の過程を学校や教職員が支えていく「発達支持的生徒指導」の必要性が説かれています。そして、授業は、すべての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場となり、①自己存在感の感受②共感的な人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成の4点が実践上の重要な視点として挙げられています。

冒頭に触れた校内ウイングが、友達や教職員との信頼関係のもと、個々の子どもの成長を支え、安心できる居場所となるためには、まさに、この4視点が鍵を握ります。学校の校内ウイングについての考え方は、その学校のすべての子どもたちへの考え方とイコールであるように思います。校内ウイングで大切にしていることをすべての子どもたちの学校生活の中で、とりわけ、日々の授業の中で、大切にしたいところです。

子どもが目を輝かせ、学びに勢いがある授業には、教材の理解や思考手順の構成、発問、板書など、指導技術的な良さもありますが、成長を共感し認める言葉がけ、思いや仲間をつなぐ働きかけ、学びの場として整った教室環境など、学びの土台づくりを進める教員のアプローチが必ずあり、このことは、発達支持的生徒指導の4視点到に整理できるように思います。教員のどんな言葉や表情が、また、働きかけや環境づくりが4視点到に結びついているのか、意識して授業参観すると、学習指導と生徒指導を一体化させた授業づくりのヒントが得られそうです。

今の子どもたち世代は、「α世代」と呼ばれているそうです。「α世代」とは、2010年～2024年頃生まれの「Z世代」に次ぐ世代で、AIを使いこなし、多様性とグローバルな視点を重視、タイプ(タイムパフォーマンス)の意識も高い世代だと言われています。AI時代がやってきます。私が初任の頃のワープロの世界からは想像もつかない情報技術の進展です。10年後、20年後、どんな進展を?どんな世の中になっているのでしょうか?

学ぶことや学ぶ手法が変わっても、この4視点是、子どもたちの学びや成長の原動力となる土台です。学びの土台が整うと、すべての教育活動が好循環するように思います。ぜひとも、大津の教育を大切にしながら、第4期大津市教育振興基本計画の基本理念「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」の実現に向け、大津の教職員が心を一つに、そして、あたたかい眼差しで、これからの未来を担う子どもたちの成長を支えましょう。

今年度の研修は全て修了することができました。

大津市教育センターの研修・研究の推進に多大なるご理解とご協力をいただきありがとうございました。

各研修の最終回の内容を中心に、紹介します。

## 初任者研修（小・中）

### 【第15回 2/3・2/5】 地域に学ぶ

大津市歴史博物館と大津市立図書館で実地研修を行いました。大津市外で生まれ育ち、どちらの施設も初めて訪れた初任者が多い中、大津の歴史や読書活動の活性化について、それぞれ専門家からお話を伺いました。

#### 【初任者の声】

\*大津市には様々な歴史や文化財があり、1つ1つがとても価値のあるものだと感じました。子どもたちにも伝え、歴史を大切にしていきたいです。また、実際に子どもを連れて行ったり、ゲストティーチャーとして来ていただいたりすることで、よりよい体験につながると思いました。



\*本が子どもにとって大切なのは、ただ本を読むことの楽しさを感じてほしいからだということを学びました。また、子どもと本をつなぐために、1人の大人として、何かを学ばせるための本だけではなく、人生を豊かにするものとして、子どもたちが良質な本を手にとれる環境を整えるようにしていきたいです。



### 【第16回 2/17・2/19】 閉講式

令和7年度初任者研修の閉講式を行いました。1年間の実践を振り返っての成果と課題、今後の目標など、初任者全員が所信表明を行いました。どの初任者も、自分の思いや周りの方への感謝など、堂々と伝えていました。大津市小・中学校長会の会長のお二人にもお越しいただき、初任者の所信表明の後、「信頼される教師を目指して」というテーマでご講話をいただきました。これからの新たな時代を生きていく教師へのエールや、教師としての在り方について示唆していただきました。

#### 【初任者の声】

\*この1年を通して、私は「つながり」の大切さを学びました。1年間私が頑張ってきたのは、学年の先生や管理職の先生、その他のたくさんの方、保護者の方々、そして何より学級の子どもたちに支えられてきたからだ実感しています。1年間、いろいろなことがありましたが、その度に子どもたちとしっかりと向き合い、正直な気持ちで話し合うことで、クラスとしてのつながりを深めていくことができたと思います。学級経営でも授業でも、一人ひとりと信頼関係を築いていくことを大切に、今後はさらに、子どもたち自身の思いを軸にして考えられる教師を目指したいです。

\*「初任者」とはいえ生徒の前では「先生」であり、「先生」として過ごした1年間には多くの学びがありました。この1年間の実践を振り返って、課題が2点あります。1点目は「生徒理解」についてです。一人として同じ生徒はおらず、生徒それぞれを理解しようとするのが求められました。今後も生徒理解の質を高めるため、積極的に新たな知識を得ていきたいです。2点目は、「運営」することについてです。今年度、多くのことを先輩方に教えていただきました。しかし、これからは目の前のことだけでなく、先を見通し、学年や学校全体にも目を向けて、これまで自身が学んできたことを周囲に還元していきたいです。



## 教職 2・3 年次研修 (小・中)

2・3年次研修では、1年間を通しての課題研究および授業公開を研修として位置づけています。小学校は2年次に算数科、3年次に国語科を、また、中学校は専門教科や特別の教科 道徳、特別活動を研究課題としています。最終回では、その研究の成果や課題についての研究発表会を行いました。

プレゼンテーションソフトでの発表や画像・動画・実物資料を持参しての発表もあり、どのグループでも熱心な協議が行われました。他の受講者からの質疑応答や指導助言により、自分自身の授業づくりについて深く考える機会となりました。

### 【2 年次教員の声】

- \* (小学校) 研究テーマが似ている先生方の研究報告と、センターの先生の指導助言を聞いて、「多様な考えを引き出す」には問題を理解するための具体物や児童たちが安心して発表できる学級の雰囲気づくりが重要であることを改めて実感しました。残り2か月、このことを意識して取り組んでいきたいと思ひます。
- \* (中学校) 今回、自分と同じ教科だけでなく、異なる教科の研究発表を聞く中で様々なことを考えさせられました。その中で一番感じたことは、自分が悩んでいることは、同期も同じように思い悩んでいるということです。まだ2年次なので、自分自身も探究し、最適な指導方法を見つけられるように学び続けていきたいです。

(2 年次 小学校)



### 【3年次教員の声】

- \* (小学校) 他の先生の発表を聞いて、単元のゴールを大事にしていきたいと改めて思いました。子どもの疑問や興味からめあてを考えるとともに、何のために今の活動をしているのか、全員が意識できる単元計画を立てていきたいです。そして、話す力・聞く力も育てていきたいです。話す力・聞く力を基礎として他の力もつけられるように、意見のつなぎ方を大事にしていきたいです。
- \* (中学校) どの教科でも、生徒の理解度に合った課題、また、生徒が探究したくなるような課題の設定が大切だと学びました。また、授業の中では、考えを言語化させたり、「なぜだろう?」とさらに深めさせるために問い返したりすることが大切だと感じたので、今後の教材研究に生かしていきたいと思ひます。

(2 年次 中学校)



## OJT 推進リーダー研修

2月27日の第3回は、受講者の希望や学校事情を踏まえ、集合研修と同時双方向型オンライン研修を各自で選択できるハイフレックスでの研修としました。各校の1年間のOJTの実践例を持ち寄り、小・中学校別、学校規模別のグループ交流を通して、自校の実践を振り返り、次年度に向けて成果と課題を検討しました。また、各校のOJT研修の工夫、時間の設定・確保、大津市OJTのもち方や内容等、様々な意見交流を行いました。

OJT研修は若手教員の育成はもちろんですが、すべての教職員が学び続ける場として、今後ますます学校全体、大津市全体としての取組が必要となります。今年度の全ての大津市立小・中学校の実践例を校支援ライブラリに掲載しておりますので、他校の実践例を参考に、各校の実情に応じた効果的なOJT研修を計画できるよう、ぜひご活用ください。

1

2

## 「わたしたちの天津」編集委員会

今年度、編集委員会では小学校3年生・4年生社会科副読本「わたしたちの天津」第18版の改訂、指導書朱書き編を作成しました。3年生「わたしたちの天津市」「店ではたらく人々の仕事」、4年生「わたしたちの滋賀県」「受けつがれてきた行事と先人のはたらき」の4つの単元を作成することができました。授業の展開例、板書例に加え、指導の参考になる事項をメモ欄にまとめています。

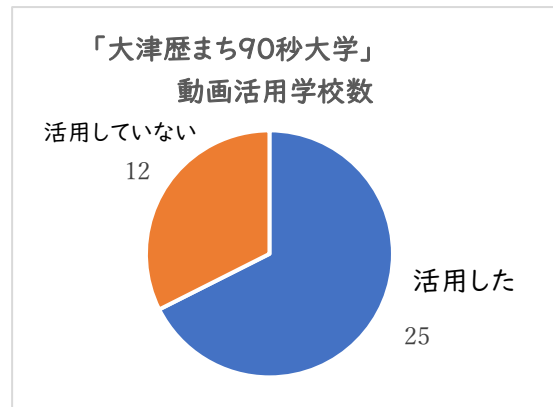


ご確認ください、指導の際にはぜひ参考にしてください。

Web ページ資料も随時更新しています。今年度は天津市都市計画課から「天津歴まち90秒大学」の動画を提供いただきました。「天津祭」「山王祭」「船幸祭」に関する動画が90秒にまとめられています。4年生「受けつがれてきた行事と先人のはたらき」の学習で多くの学校に活用いただきました。次年度以降も是非ご活用ください。



### 市立小学校(37校)アンケート結果



\*90秒でまとめられた天津祭の動画は非常に見やすかった。9/16には実際に籤取り式があったので、同日にそのタイミングで動画も視聴した。

\*子どもたちが天津祭の中で気になるものを選んで動画を視聴し、気づきを探す授業で活用した。説明の補足もあり、わかりやすかった。たくさんあるので、個別学習に最適で、映像から情報を得ることも有効であった。

## 第62回天津市技術・家庭科作品展

1月23日(金)~27日(火)に天津市生涯学習センターにおいて、「第62回天津市技術・家庭科作品展」を開催しました。市内小・中学校からは300点を超える作品が出品されました。子どもたちが一生懸命取り組んだ作品はどれも力作ぞろいで、会場に訪れた人たちは、一つ一つの作品を丁寧に鑑賞されていました。この作品展が、子どもたちのものづくりに関する教養を高め、生活の充実向上につながる機会になればと願っています。

### 【来場者アンケートより】

- ☆家庭科の学習というのは、とても多方面にわたっていて、生きることの基本なんだなあと思いました。
- ☆小中学生のみんなの発想、技術を見習わなければならないと思い、何かに挑戦してみたいと思いました。
- ☆郷土料理のレシピの完成度に驚いています。
- ☆児童生徒たちのレベルの高さに驚きました。
- ☆フェルトで作った小物がとてもかわいい。丁寧に作っている。



## 令和7年度 学校園教育研究委員会

### 「一人ひとりの可能性を輝かせる教育と学校段階における接続を探る」 ～心豊かに生きる力につながる「主体性」に着目して～

保育・授業の参観を伴う研究会を実施しました。実際の子どもの姿から、心豊かに生きる力につながる「主体性」を育む具体的な保育・授業づくりの工夫や教師の関わり方について探ってきました。

「主体性を支える土台」については、安心感や信頼関係、知的好奇心などが大切であり、また「保育・授業での工夫」については、共主体(子どもとともに創る遊びや学び)や自ら選択・決定する機会、多様な体験の場づくり、主体的・対話的で深い学びなどが大切であると捉えることができました。

研究のまとめのリーフレットを各校園に送付いたします。

学校園の保育・授業づくり、連携・接続の参考にしてください。



仰木の里東幼稚園 5歳児  
(製作・ごっこ遊びなど)



瀬田小学校 5年生  
(家庭科の授業)



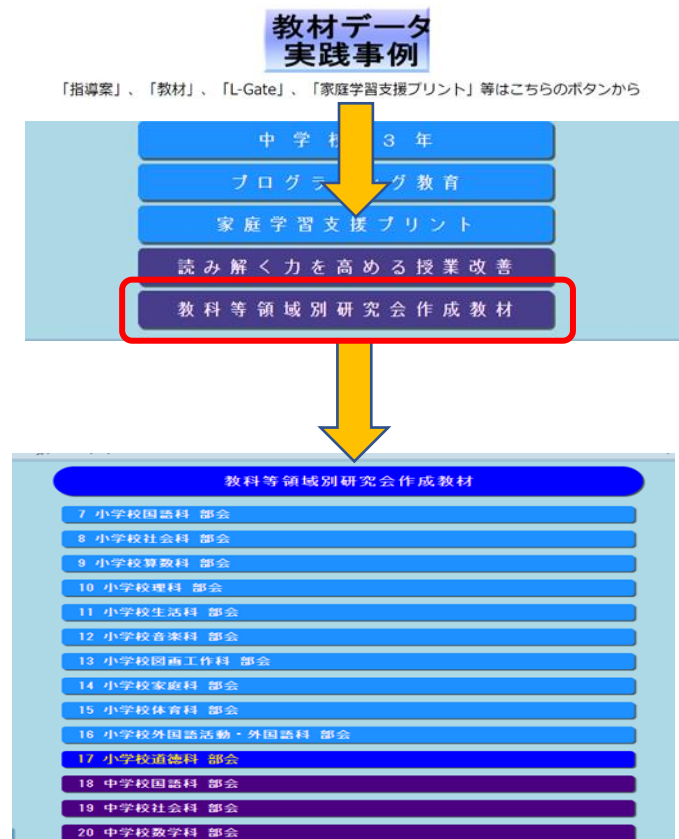
打出中学校 1年生  
(英語科の授業)

## OIE-NET 教職員向け Web ページの活用について

OIE-NET 教職員向け Web ページでは様々な情報を提供しています。「教材データ・実践事例」の中の「教科等領域別研究会作成教材」には、各部会の活動として行われた研究授業の指導案を掲載しています。

授業者と部会から許可をいただいたものを部会ごとに整理して公開しています。今年度分だけでなく過去数年分の指導案を掲載しておりますので、学年・教科のバリエーションも増えてきています。

普段の授業のアイデアを探したり、校内研究の授業の参考にしたり、様々な活用方法が考えられます。ぜひ一度クリックしてみてください。新しい授業の扉が開くかもしれませんよ。



## 若手教員育成学校園訪問を実施しています

積極的なご活用を!!

大津市教育センターでは、主に経験年数が5年以内の若手教員を対象に、幼稚園、こども園、小学校、中学校への訪問指導を実施しています。今年度は、講師の先生方を対象に追加募集もを行い、追加の要請をいただきました。

若手教員の育成のための訪問ということで、保育や授業を参観したうえで、厳しい指導をされるのではないかと敬遠される若手の先生方もおられるかもしれませんが、現状は指導というよりも若手の先生方の授業づくりや学級経営、生徒指導などについての悩みごとなどについて聞かせていただき、一緒に解決方法を考えたり、解決のヒントとなる資料を提示させていただいたりするなど、支援に重きを置いた関わりをさせていただいています。

若手の先生方と1対1でお話をさせていただくことで、自然体での対話となり、お別れする時に笑顔で「とても参考になりました。ありがとうございました。」と言ってくることが多く、訪問させていただく我々もやりがいを感じさせていただきました。

新年度改めて通知をいたしますが、令和8年度も6月～2月の訪問を予定しています。これからの学校教育を担っていく若手の先生方の成長の一助となればと思っていますので、ぜひご活用ください。

## 大津のキラリ★みつけた

大津市教育センターでは、若い先生方を対象に、よりよい保育やより確かな授業づくりについて助言を行い、サポートをしています。

そんな中で見つけたのが、若い臨時講師の先生のキラリです。

先日訪問させていただいた中学校の臨時講師の先生は、次のようにおっしゃっています。

今日のその子の反応をとらえて、「今日、調子よさそう」とか、「何かあったのかな?」と、指導者としてずいぶん推し量れるようになりました。授業準備? 大変ですけども、前任者が引継ぎの時に残してくれたものを参考にさせてもらっています。歴史の授業の醍醐味ですか? 日本がどのように変化し、今へとどうつながっているのか。「今とのつながり」「だから、今がある」、これをとらえることですね。一番苦心しているのは、生徒会。まかされたけれども、何をどうしていけばよいのかわからない。教員採用試験に向けての勉強は、睡眠時間を削ってやりました。



(訪問者より)

見通しが持ちづらく、常に手探りのなか、熱意のある誠実な勤務がそこにありました。

教育は、チーム戦です。臨時講師の方に限らず、職員室内のスタッフ全員への感謝と心づかいによって教育活動の質を高めていけたら、と考えます。